



一步前へ

東中学校1年学年だより

令和6年6月4日

第4号



～福祉実践教室を行いました～

5月29日(水)の5・6時間目に、総合的な学習の時間で福祉実践教室を行いました。車いす体験、手話、点字、視覚障害ガイドヘルプ、高齢者疑似体験、要約筆記の6講座のうち、1種類を選択し、講師の先生と共に福祉について学びました。体験後の感想を紹介します。



手話の体験をやって、「助け」という大切さが分かった。人は助けがないと生きられない。だから気づいてあげられるように周りのことを見る必要があると思った。手話をしている人から私は表情でその人の気持ちが少し分かった。表情豊かなことは、気持ちが分かると思うと、表情は会話の一つなのかなと思った。また「耳が聞こえる」ことは当たり前じゃないんだなと思った。

案内役で講師の方々を案内するときに、車いすの方や高齢者の方々に合わせてゆっくりと歩きました。少し段差があったとき、視覚障害の方を見ると、サポートの方が素早くていねいに「少し段差があります」「マットがあります」と情報を伝えていたので、すごいなと思いました。手話でも講師の方の表情がころころと変わるのが、見ていてとても楽しく、考えるときには他の子の意見も聞いて、とても充実した時間になりました。

困っている人がいたら助けに行く。当たり前だけど難しいことを普段から当たり前でできる人になりたいと思いました。サポートしたり、手伝いをするとき、人の命をあずかっているという責任を背負いながら、安全・安心を意識して行動することが大切です。すべての行動にやさしさと思いやりをもって行動することで、福祉、誰もが暮らしやすく、楽しい社会に近づくことができると学びました。だれかの幸せにつながる行動を勇気をもってできる人になりたいです。



自分は耳もちゃんと聞こえるし、目も見える。しゃべれもするし、歩くこともできる。それが自分にとってはあたりまえのことだけど、他の人にとっては特別だということが、この体験をしてみないと気づけなかったのが、学べてよかった。自分にも周りの人にも助けてくれる人がいることは、とてもうれしくありがたいことだと思った。だから次は自分が手をかしてみる番だと思い、まわりに困っている人がいたら、勇気を出して声をかけられたらいいなと思った。



実際に目が見えない方たちの体験をしてみて、こんなに怖いんだなと思いました。今までは「自分が目が見えるのは当たり前」と思っていたのですが、正直、いつ目が見えなくなってもおかしくはないことに気づきました。多くの方々が、昔の事故などで目が見えなくなっているからです。だから、困っている人に声をかけたり、自分も自分の目のことなどを大切にしていきながら、今回学んだことを生かしていきたいです。